

5 グローバル化

世界中で人やモノ、情報、金の交流が活発になり、国際交流や国際協調の必要性が高まっている。一方、地球規模での市場経済化が進み、競争の激化による格差の拡大や、企業や産業の再編による雇用の不安定化、地域経済の弱体化などの不安が高まっている。

本県においては、本県経済を支えてきた産業の空洞化が懸念されることから、国際競争力を持った産業の育成や人材等の資源の確保、強化を地域が主体的に進めていくことや、内発的な地域経済の再構築などが重要になってくる。

(1)現状と経緯

(グローバル化の進展)

- 冷戦構造の終結と国際的な交通・通信基盤の急速な整備が相まって、国境を越えた人やモノ、情報、金の交流が活発化し、国際的な経済活動は飛躍的に進展してきた。さらに、貿易の自由化の流れやアジア諸国の急速な経済成長、ロシアや東欧の自由市場への参加などにより、地球規模で市場経済化が進んできている。
- その結果、国際分業の進展、国際規模での地域間、企業間競争の激化、*ISOなど国際標準の普及などが起きている。
また、市民活動においては、地球市民意識の高まりを背景に、国際的な*NGO活動が活発化してきている。
- 一方で、急速なグローバル化は様々なひずみをもたらす面もあり、欧州などの一部では批判的な見方も出てきている。

(グローバル化による社会への影響)

- 世界との交流は、様々な面で拡大してきており、滞日・訪日外国人の増加や対日・対外投資の拡大はその顕著な例の一つである。その結果、地域における外国人との出会いの機会が増える一方で、一部では様々なあつれきが生じている。
- さらに、姉妹都市交流など地域における草の根の海外交流も活発化しており、文化交流や経済交流、子どもたちの相互訪問など、交流の内容も一層充実してきている。
- 産業・企業は、国や地域にとらわれることなく、最適な事業環境を求め、地球規模で選択と移動を行うようになってきている。こうした動きと、企業における事業再編とが絡み合い、大企業を中心に生産拠点の統廃合や海外への移転が活発になっている。その影響で、関連する取引先が大きな影響を受ける場合もあり、地域産業は大きな転換期を迎えている。
- 中でも、中国は、急速な成長・発展により、世界の工場としての地位を確立し、それを強化しつつある。我が国の産業は、中国と地理的に近い状況もあり、新しい関係を模索している状況にある。



[ISO (International Organization for Standardization) 国際標準化機構] 工業製品からサービスに至る様々な国際規格を決めている国際機関。国際規格の代表例としては、企業が、顧客や消費者からの信頼性を高めるための「品質保証体制」の構築を図るISO9000シリーズ、環境配慮のための対外的な信頼性向上とコスト削減のための「環境マネジメントシステム」の構築を図るISO14000シリーズがある。
[NGO (Non-Governmental Organization) 民間非政府組織] 「非政府」という観点に着目した表現であるが、NPOと同様に非営利の組織である。日本では、国際協力の活動を行っている団体に対して使われることが多いが、活動分野を限定するものではない。

(2) 将来の予測

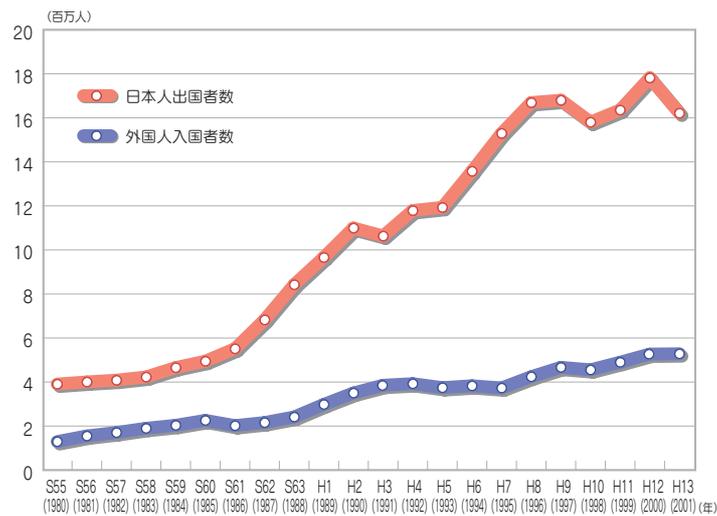
(グローバル化さらなる進展)

- 地域間や企業間などの競争関係がますます強まり、その中で勝ち残りに向けた取組の一層の強化が求められる一方、国際規模での協調や相互補完関係も強まり、国家を中心とした国際関係に加え、地域や企業、個人を単位とした様々な国際関係が複雑に絡み合う社会になっていくことが見込まれる。
- 我が国の各地域で、競争力を高めるための様々な取組が活発に展開されるようになり、その結果、地域や企業等における格差が拡大することが予想される。

(社会経済面への影響)

- 滞日・訪日外国人の増加や対日・対外投資の拡大が見込まれる。特に、アジア諸国の経済発展と海外旅行に対する規制の緩和などが一層進むことから、アジアからの観光客や対日投資の拡大が期待される。
- 滞日・訪日外国人の増加は、地域における国際交流の拡大に貢献するとともに、地域に様々な刺激を与え、内なる国際化などを進める起爆剤になる可能性がある。
- 我が国の海外生産比率は着実に高まってきており、将来的には、米国やドイツ並みの比率にまで増加することも見込まれる。
- 地球市民の一人として、グローバルな視点でローカルに活動することがますます求められるようになり、情報提供や教育などのこうした活動促進に向けた環境整備がより一層進んでいくことが見込まれる。

外国人入国者数・日本人出国者数の推移



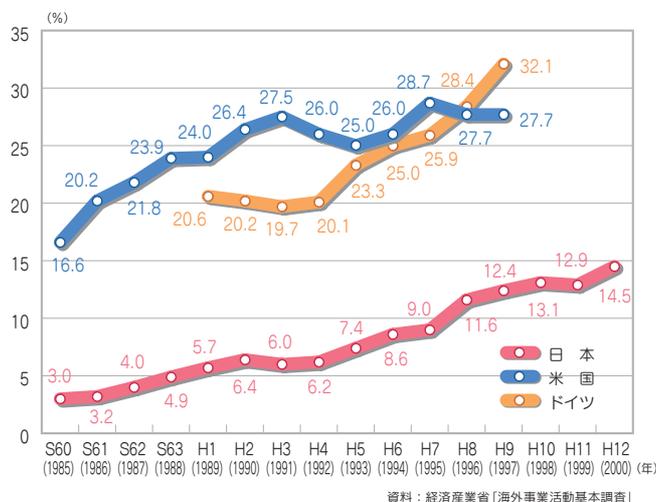
資料：法務省「外国人及び日本人の出入国者統計」

(3) 今後の課題

(グローバル化時代の産業)

- 国際競争力のない産業が淘汰されるなど、世界規模での産業の再編と地域間の経済格差の拡大が進み、企業や産業の再編による雇用の不安定化、地域経済の弱体化への不安が高まっている。
- 世界と勝負できる産業の育成や人材等の資源の確保・強化を、地域が主体的に進めていくことが求められる。また、サービス業等の地元に着目した産業の育成に力を入れるなど、自立的、内発的な地域経済の再構築、産業や企業の淘汰に対応したセーフティネットの構築や充実が重要になる。
- 世界規模での交流の拡大を新たなビジネスチャンスとして活かしていくためには、世界の市場に目を向けることの重要性を再認識し、国際標準への対応などを進めていくことが必要である。また、世界規模での企業活動を展開していくために、これまでの日本型経営を見直し、新たな日本型経営の構築が求められる。

各国別の海外生産比率



(内なる国際化と地球市民)

- 世界との直接交流が進む中で、これまでとは異なる出会いの中から、新しい文化が生まれる可能性がある一方で、賃金水準の低下や生活慣習面の違いなどから、様々なあつれきが生まれる可能性もある。
こうした中で、世界の文化を理解し尊重する、内なる国際化を進めるとともに、外国人労働力受け入れの是非についても、今後、国民的議論が必要になってくる。
- 何よりも、国家間の提携や協調が進展する中で、今まで以上に地球市民としての意識を育て、国際感覚を備えた人材を育成することが求められる。